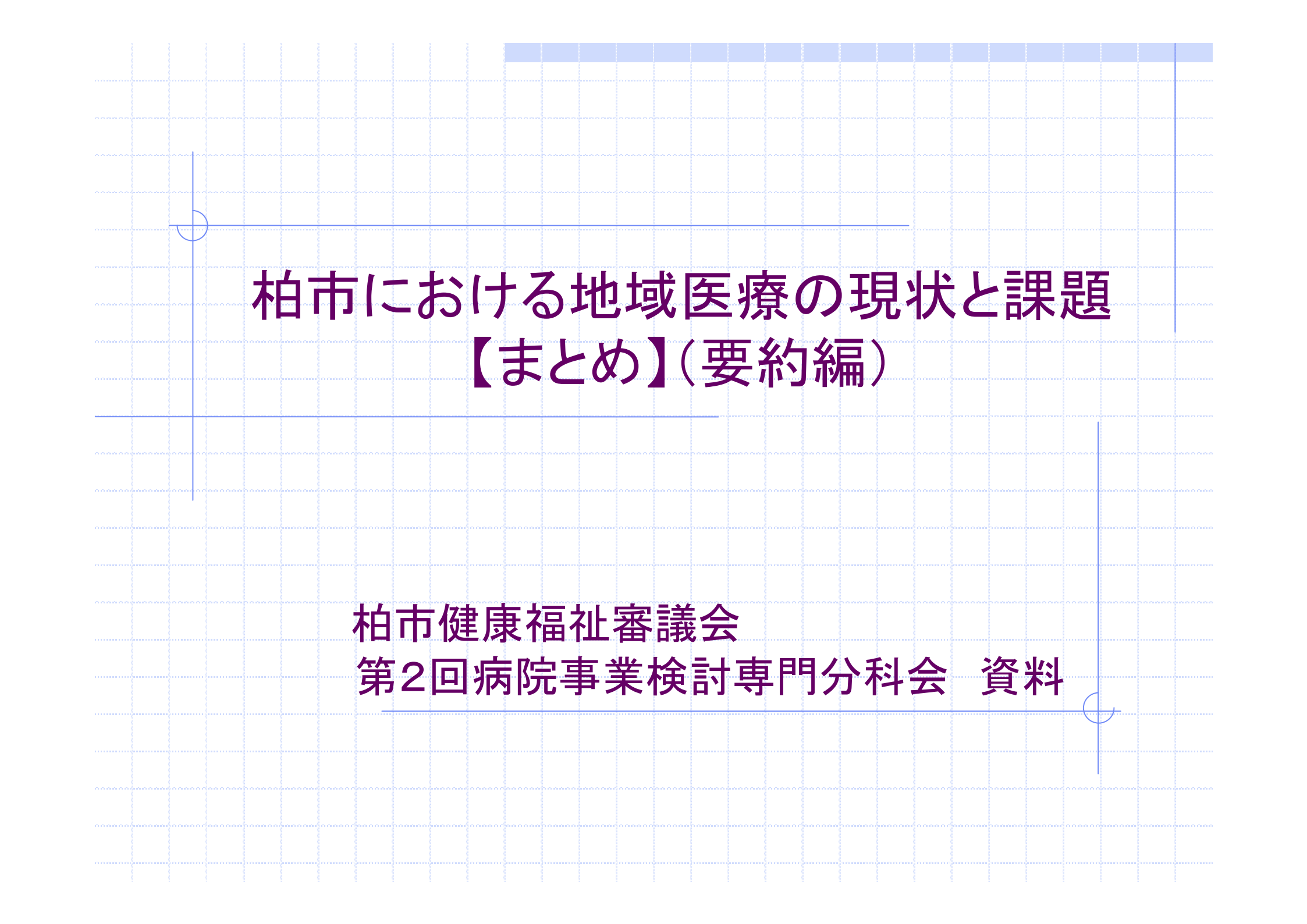




柏市における地域医療の現状と課題 【まとめ】(要約編)

柏市健康福祉審議会
第2回病院事業検討専門分科会 資料

■第2回審議会の議題

テーマ1; 柏市の地域医療の現状と課題のまとめ

●目的; 地域医療の課題を明確にし, 市立病院が果たすべき役割の方向性を確立していく。

●まとめの方法

- ・前回審議会提起のデータ及び意見の反映
- ・前回審議会で提起された“宿題”（救急実態の更なる分析, 高齢者疾病構造の分析, 精神疾患の対応策, 産科医療の評価など）の検討結果

+

市民アンケートの
結果分析評価



地域医療の現状と課題(まとめ)
とする

テーマ2; 地域医療の課題を踏まえた これからの市立病院の基本スタンスの検討

- 目的; 見出された「地域医療の課題」を切り口として、市立病院の現状の概観を列挙し、市立病院がどの課題の解決をどのように担うべきか等、3回目以降の審議内容の焦点の頭出しをする。

■テーマ1; 柏市の地域医療の現状と課題のまとめ

●前回審議会で提起された検討課題 1

～救急医療の更なる分析～

◆自力来院(ウォークイン)を含めた救急件数は？

○自力来院(ウォークイン)は救急車搬送の約4.8倍。

○ウォークイン全体数(22年実績からの推計)

14,473件 $\times$ 4.8 = 69,470

○これに一次診療(夜急診)件を加えると,

○14,473(救急車) + (14,473件 $\times$ 4.8)(ウォークイン) + 4,730(夜急診) =
88,673件。人口40万人の20%強にあたる。

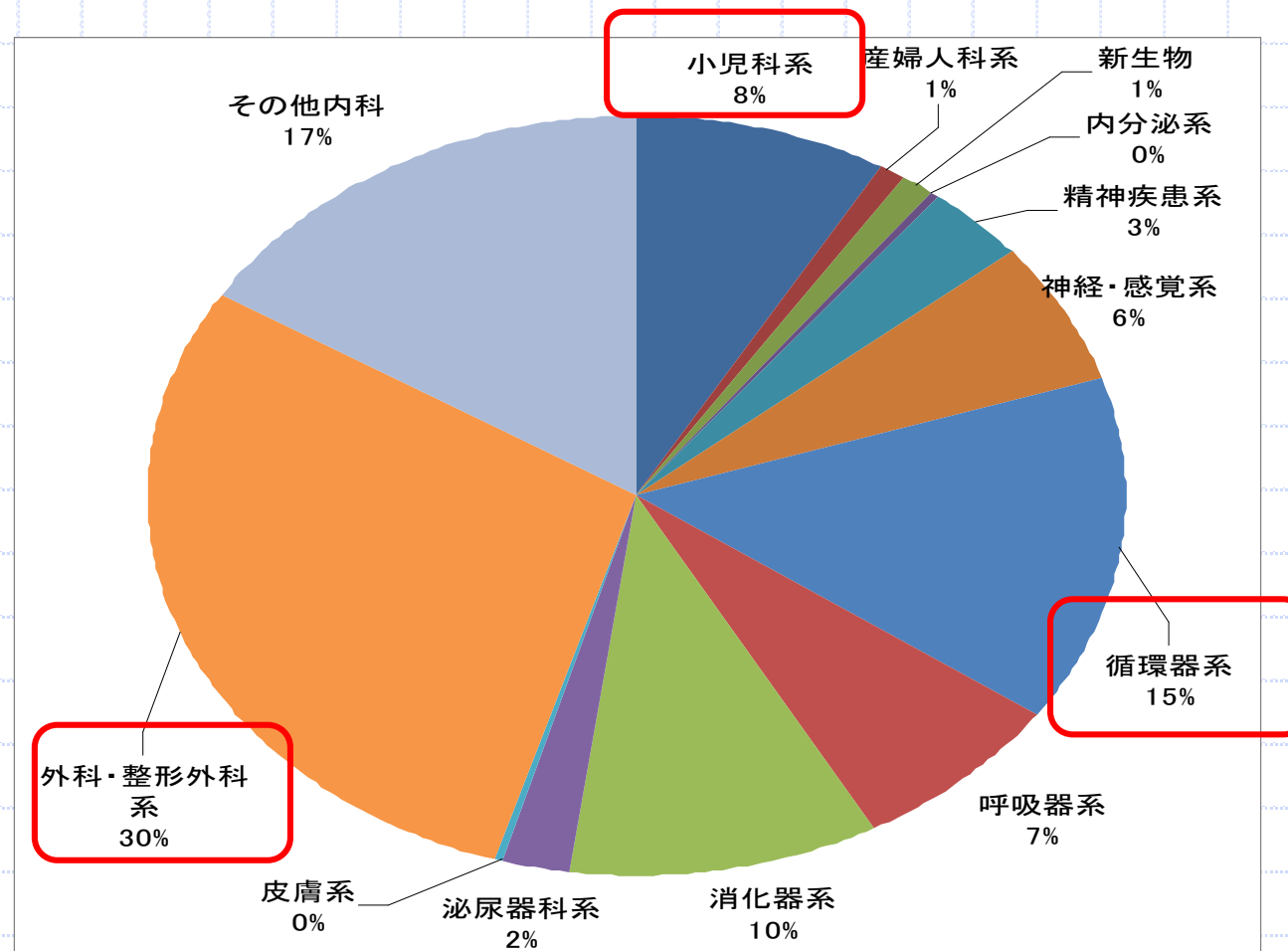
◆小児に特定すると・・

○市立病院にける年間小児救急のウォークインは救急車搬送の10倍。

○ 1,113件 $\times$ 10 = 11,130件 $\Rightarrow$ 1,113 + 11,130 = **12,243件。33.5人／日。**

◆疾患の内訳(ウォークインは含めず)

小児科系	1271
産婦人科系	125
新生物	169
内分泌系	38
精神疾患系	521
神経・感覚系	893
循環器系	2226
呼吸器系	1107
消化器系	1561
泌尿器科系	345
皮膚系	37
外科・整形外科	4415
その他内科	2441
合計	15149

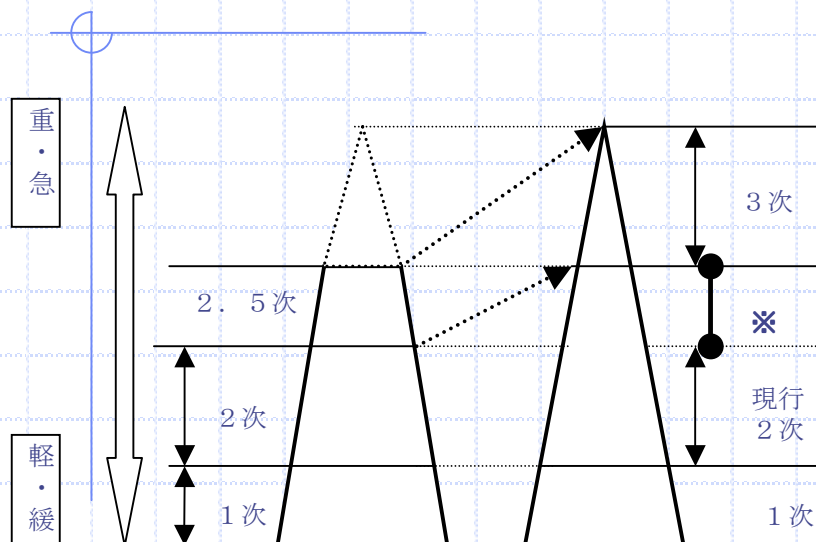


○小児科系は、全体規模に比べれば比率は高い(人間が成長する上で自然の成り行き)

○時間が勝負の循環器系が大きな比率をしめるのには訳がある。

○外科・整形外科も比率が高い。

◆二次病院輪番制と分野別ネットワーク



【二次病院輪番制】

	柏厚生病院	柏立柏病院	名戸ヶ谷病院	おおたかの森病院	岡田病院	千葉柏たなか病院 辻中柏の葉病院
月						
火						
水						
木						
金						
土						
日						

この輪番制以外にも・医師会、病院同士の独自の連携救急ネットワークとして

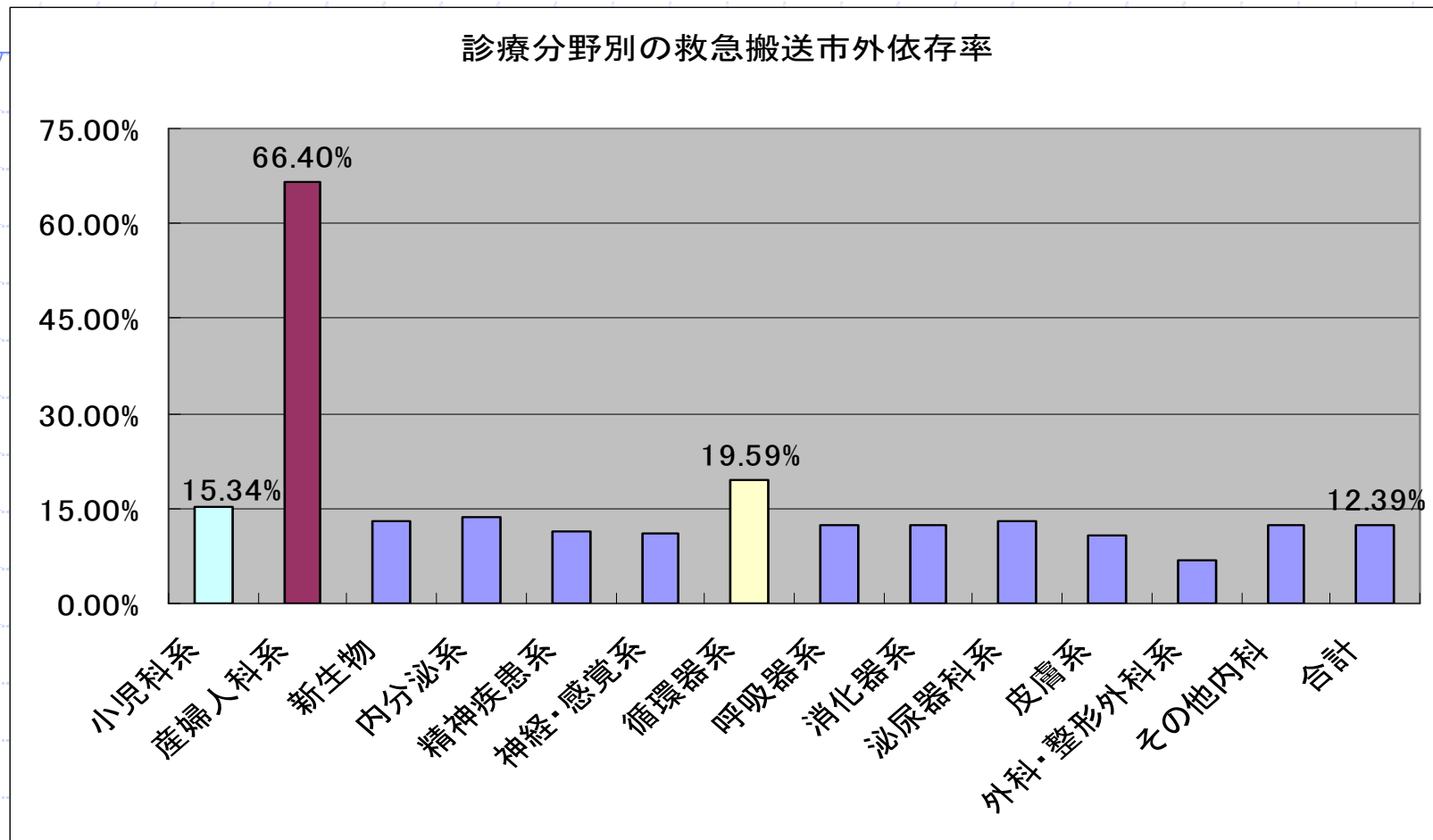
○GIBネットワーク

松戸，流山，柏の三市の病院が独自に輪番を組み，消化器系の救急患者受入態勢を整える。

○柏市ハートネットワーク

時間が勝負の部分のある疾病である事を深慮し，慈恵，おおたか，市立柏の3病院で『柏市ハートネットワーク』を形成し，診療所医師，救急隊などから当院の循環器内科医師とダイレクトに常時連絡が取れる体制を構築し，心筋梗塞の患者を迅速に受け入れている。

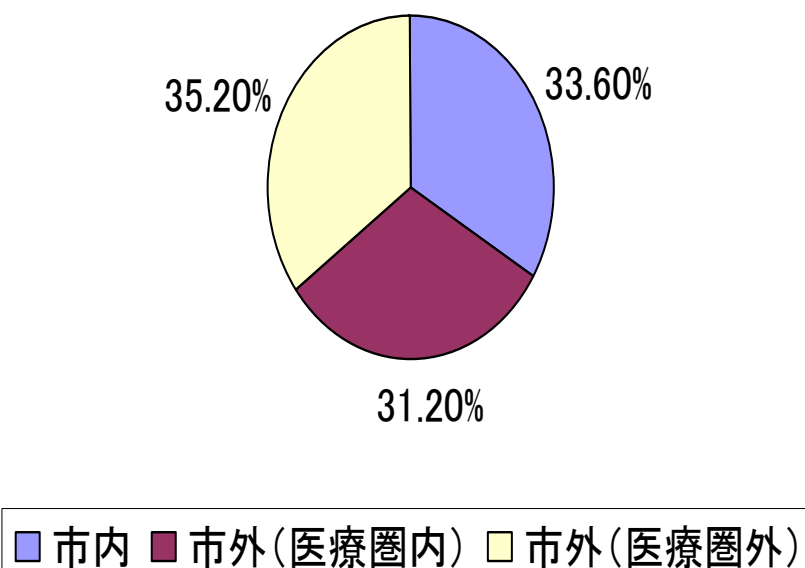
◆診療分野別に見る柏市の救急医療の市外依存率 (ウォークインは含めず)



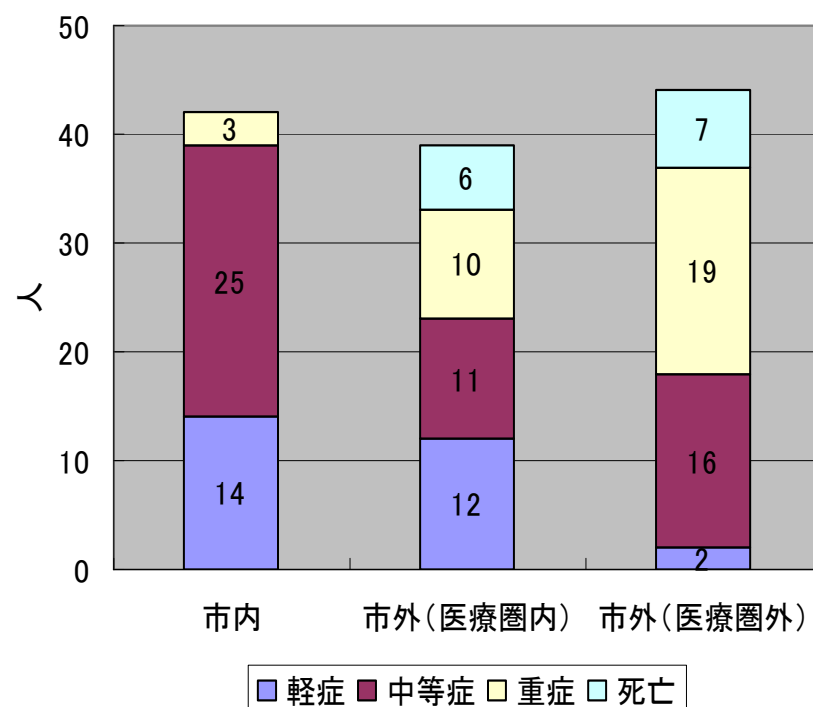
○産婦人科が突出して高く、次いで循環器科系、小児科系、と続く。

○産婦人科の実態

産婦人科の搬送先別割合



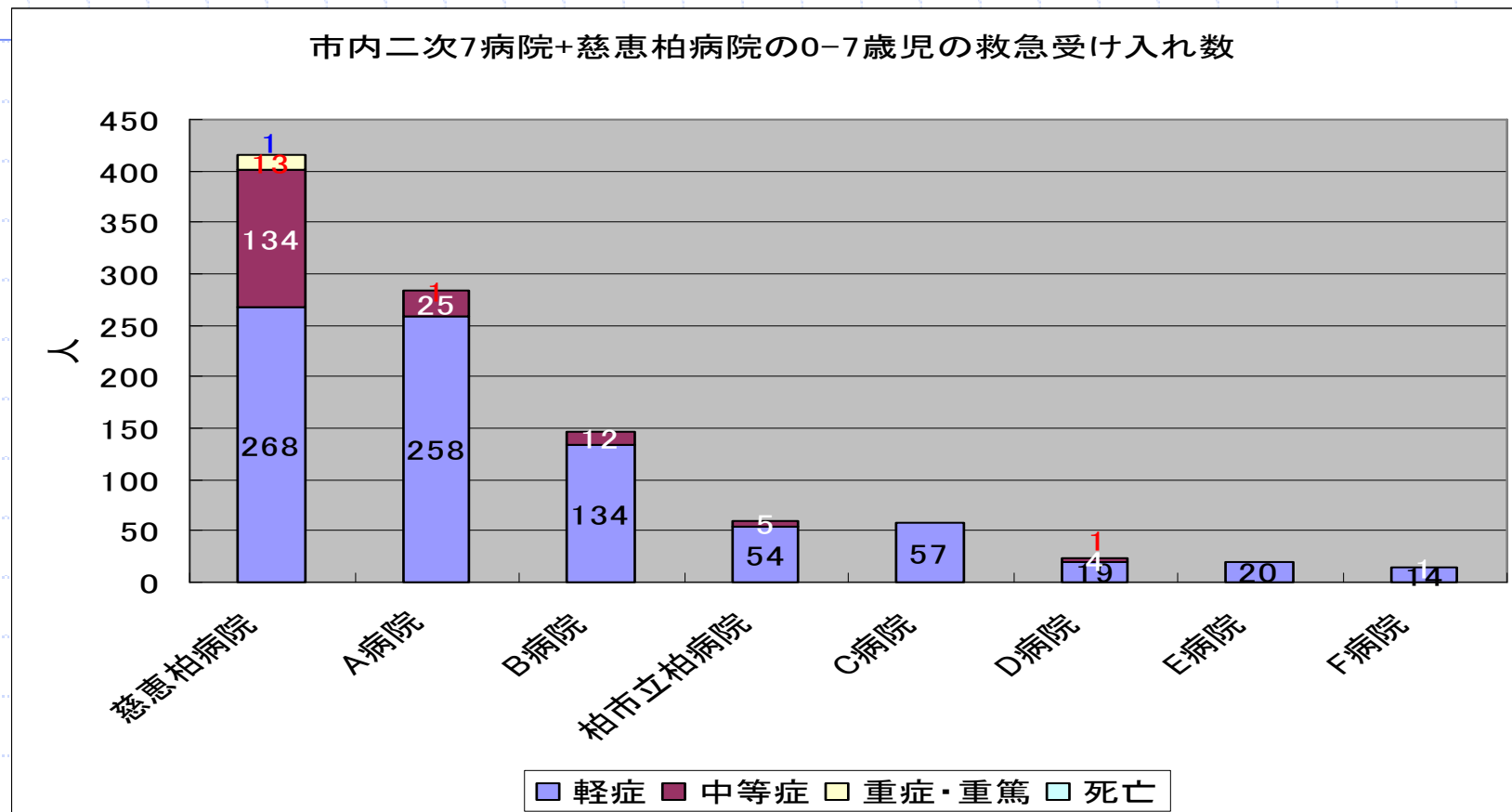
産婦人科の搬送先数(症状別)



○市内, 市外医療圏内, 市外医療圏外の割合が拮抗している。
 ○外へ行くほど中等症, 重症の人数が多い。
 ⇒医療圏内に周産期医療を担う病院がないことが大きな原因と思われる。
 ⇒「ハイリスク妊婦対応」が柏市をはじめとした医療圏の課題。

○小児救急の実態

※市外依存率は20%弱。しかし市内別で見ると・・



○慈恵柏で全体の半数近くを受け入れ。

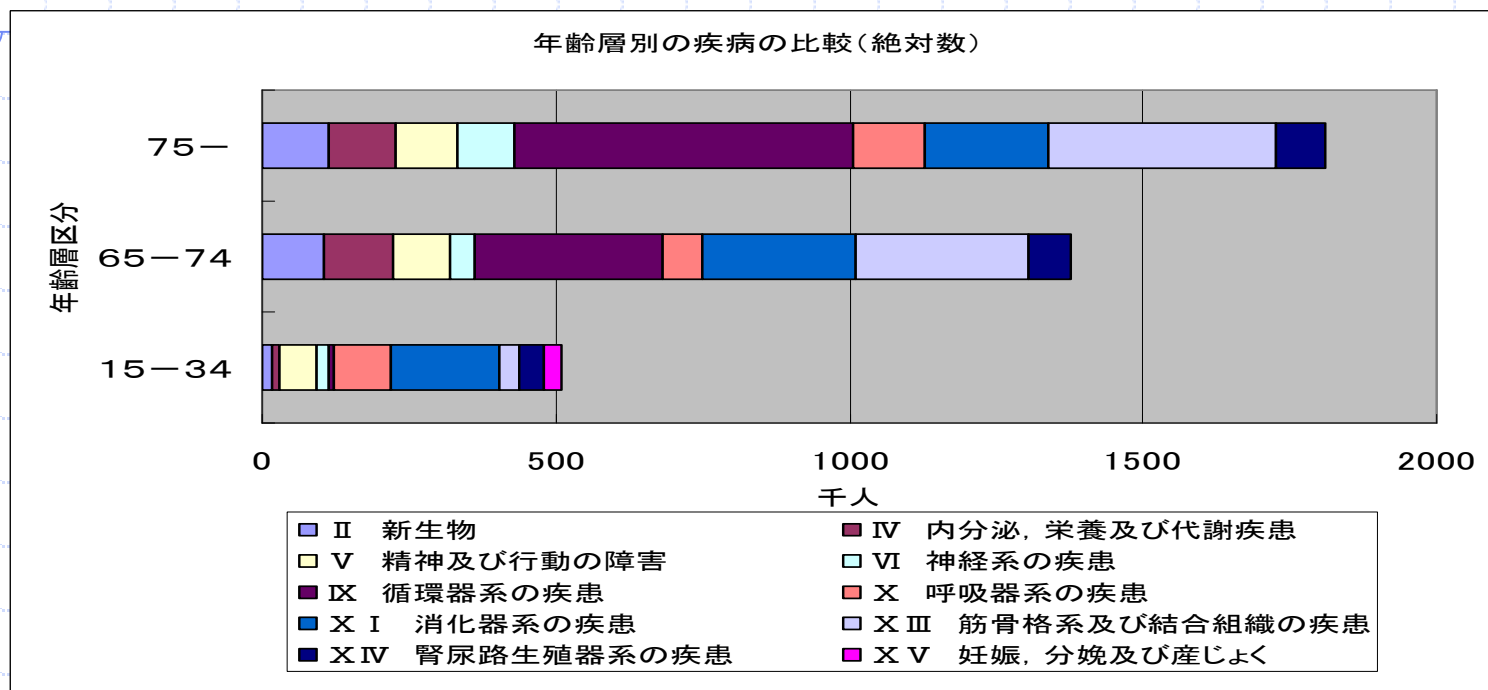
○しかも、その受け入れの半数は軽症，軽症＋中等症で大部分を占める。

⇒二次病院レベルの受け入れを三次病院の慈恵に頼りきっているのが柏市の現状。

⇒二次レベル(軽症・中等症)の小児救急病院を作ることが柏市の課題。

●前回審議会で提起された検討課題 2 ～高齢者の疾病構造／精神疾病の構造の分析～

◆若年世代と高齢世代の疾病構造の比較 (20年度厚生労働省患者調査より)



○若年世代では呼吸器系，消化器系の疾患が多いものの，高齢者になるとそれらの割合は減る。

○若年世代ではそれほど多くない循環器系疾患が，高齢世代では著しい割合を占める。同様に整形外科系，糖尿病系も多くなる。これが後期高齢者になると，さらに増加している

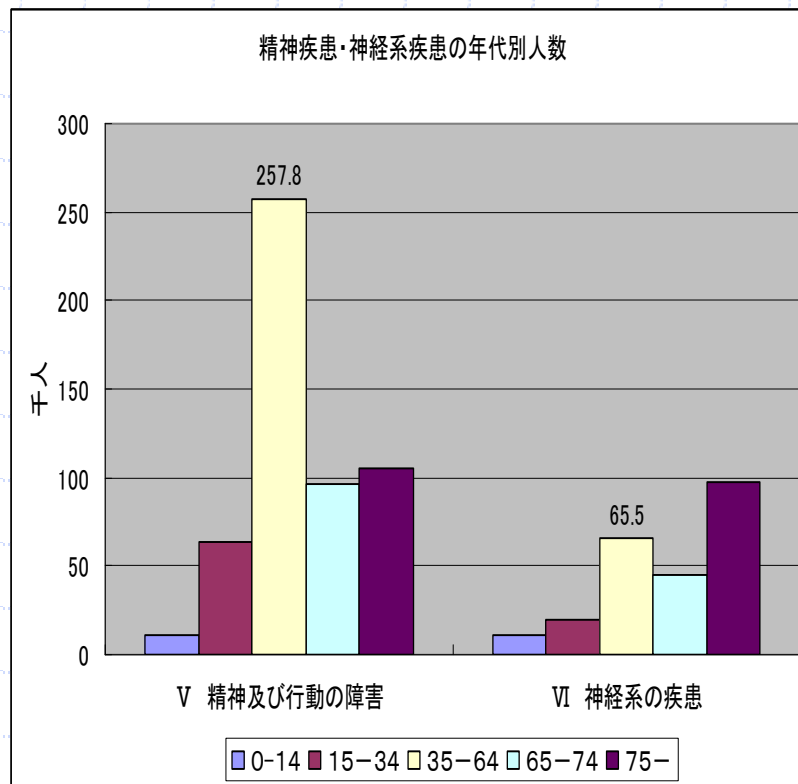
○神経疾患は高齢者が圧倒的に多い（アルツハイマーなどが分類される。）。

⇒循環器系は特に救急医療が必要とされる分野であり，この対応が課題。しかも，高齢化でますます需要が伸びる。

⇒認知症対策では，福祉と連携しつつ，神経系の充実が必要。

◆年代別の精神疾患患者・神経疾患系患者の増減

(20年度厚生労働省患者調査より)



○精神疾患系では35－64の働き盛りを含む世代がダントツで多く、しかも高止まりしている。



○いわゆる3分診療は

1. 医療の量的拡大で解消されうるか。
2. 精神疾患の増大はそもそも医療だけで解消されうるか(医師の負担という観点で)。

※(例)認知行動療法が保険点数化されたが、どれだけの医療機関がそれを導入しているか



○量の拡大から質の向上へのシフト

増大への対応は、医療(=医師)だけによるものではなく、他職種の連携を医師がコントロールする体制へ。

○「自殺総合大綱(旧大綱を全面的に見直し24年8月に閣議決定)」より抜粋
第3 当面の重点施策(中略)・認知行動療法などの診療の普及を図るため、精神科医療体制の充実の方策を検討する。また、適切な薬物療法の普及や過量服薬対策を徹底する。【5(1)】

●前回審議会で提起された検討課題 3

～柏市の産婦人科医療をどう見るか～

◆データ(その1)

○年間出生件数 約3,500人(母子手帳発行数)

⇒1日約10人の出生

○県外妊婦健診委託医療機関 342機関(北海道～沖縄)

⇒出生の約10%は県外で出産と推計される。

○仮に全体数の90%が市内の産婦人科機関を利用し, 1人あたりの出産の入院日数を7日間とすると・・

3,150人(推計実人数) × 7日 = 22,050人(推計延人数)

22,050人 / 365日 = 60.41 ÷ 61床

◆データ(その2)

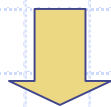
○市内の産科病床数 67(40+18+9)床+慈恵柏病院

(有床診療所が多いのが産科の特徴)

○市内産婦人科専門病院の病床稼働率は22年度平均で52.5%。

○救急車搬送の場合の市外依存率で見ると、前述のとおり産婦人科はダントツの60%超。しかもその半数は医療圏外。

⇒中等症, 重症ほど市外→医療圏外への搬送数が増えている。



○通常の出産に対して, 柏市の医療資源が深刻なほど不足していると言い難い。

(但し, 市民が市外医療機関を, 市外住民が市内医療機関を利用していると考えられるため, この数値が現実を正確に表現していると言い切れない面はある。)

○救急車搬送の場合の市外依存率は著しく高い60%超。しかもその半数は医療圏外。これらには多くの重症事例や死亡事例がある。したがって, ハイリスク妊婦対応が大きな課題。

●市民アンケートに見る市民意識

～今回のアンケートで特徴的な事項～

※アンケート自体の結果は、アンケート結果報告に記載。

※本資料では、アンケートの分析で注目すべき点に絞って、記載。

○注目すべき点（分析1）

◇【問2】市立病院を加えた75%近くの市民が市内医療機関を利用。（千葉県の調査では医療圏域内入院率が86.7%）。

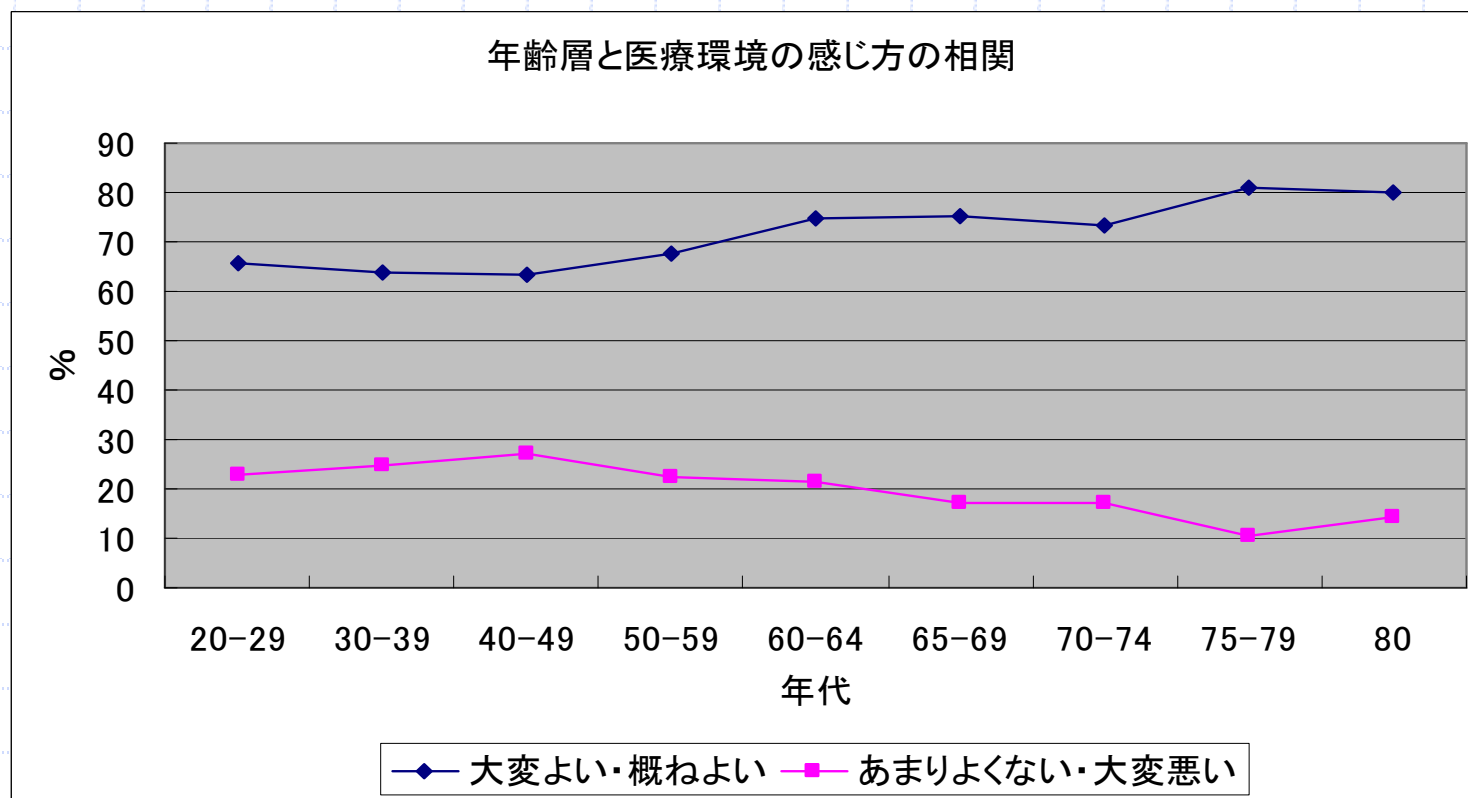
◇【問4】柏市の医療環境を“大変または概ねよい”と感じている市民は70%。

◇【問5】今後の地域医療に必要な事の1位は全世代とも「救急医療」、次いで「小児医療・小児救急」、「保健福祉介護の連携」、「在宅医療」などが一群を形成。問7とは裏腹に「産科医療」の順位は低い。

◇【問9】今後の市立病院の役割は、上位2位の「救急医療」「小児医療・小児救急」まで、問5と一致。

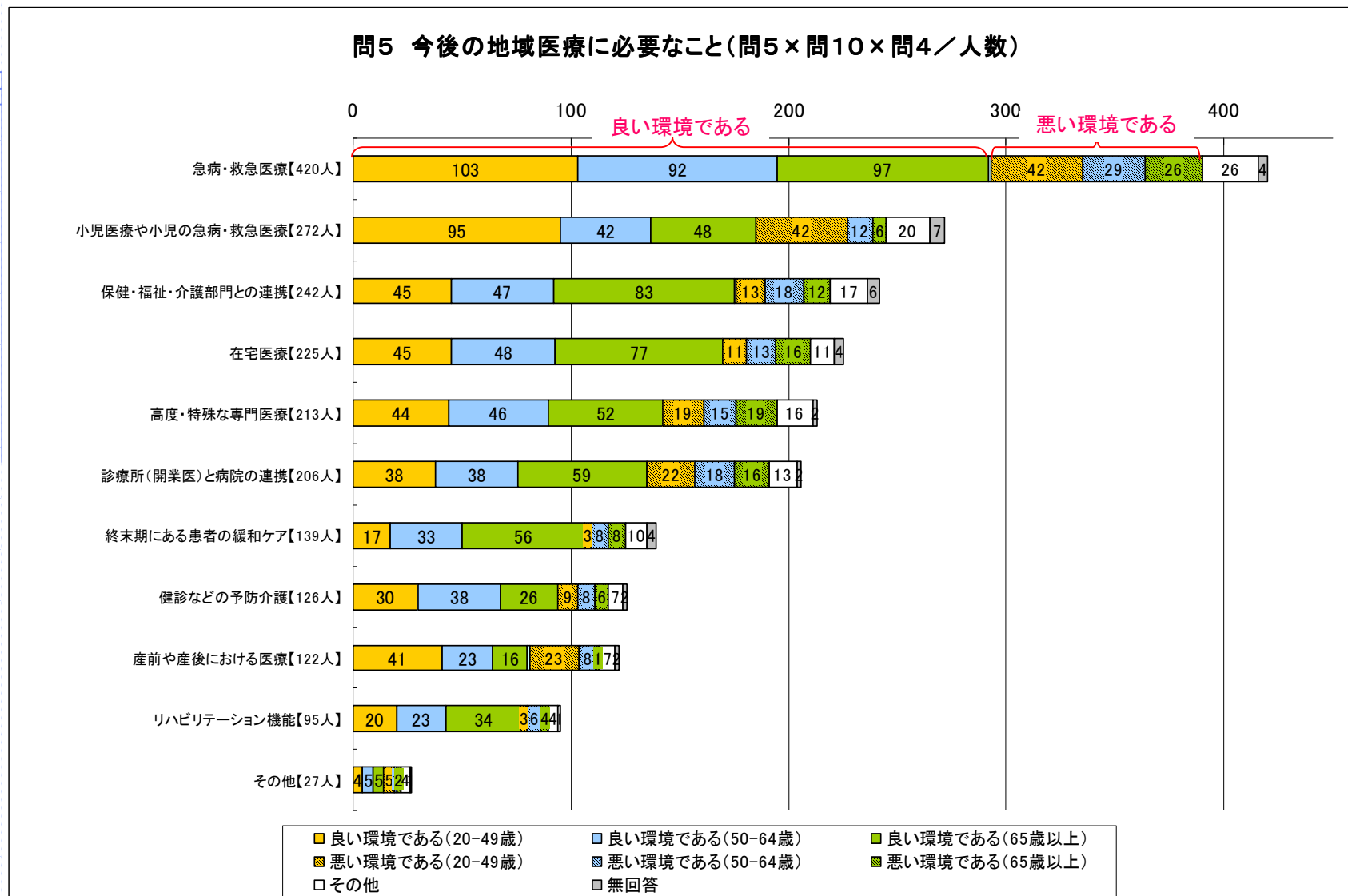
○注目すべき点(分析2, クロス集計)

◇(【問4, 問10】)若い世代が比較的, 医療環境はよくないと感じている。



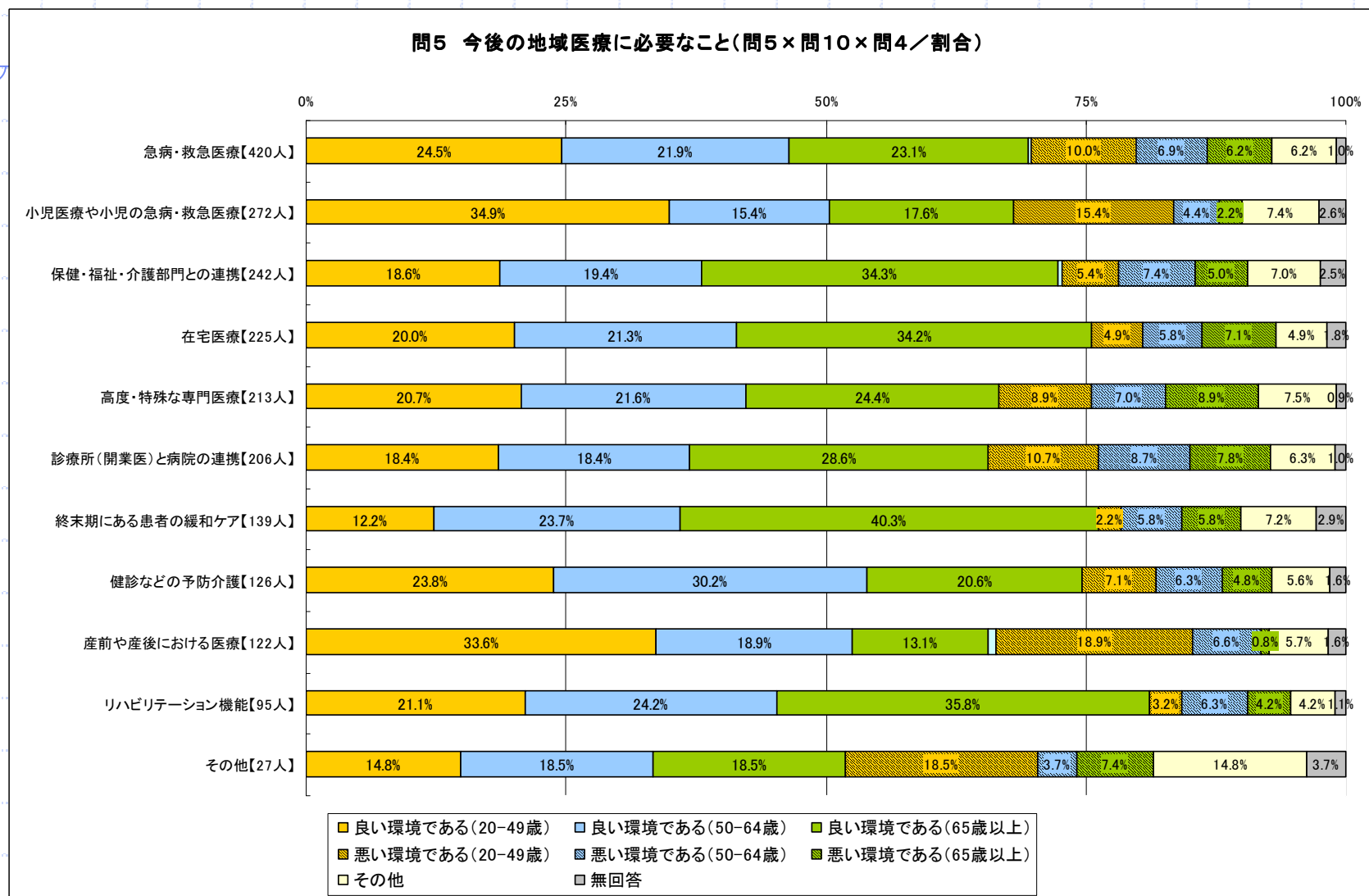
○若い世代も安心できる医療体制が求められている。

◇(【問5, 問10, 問4】)地域医療の課題と年齢層, 柏市の医療環境の 評価との相関(人数)



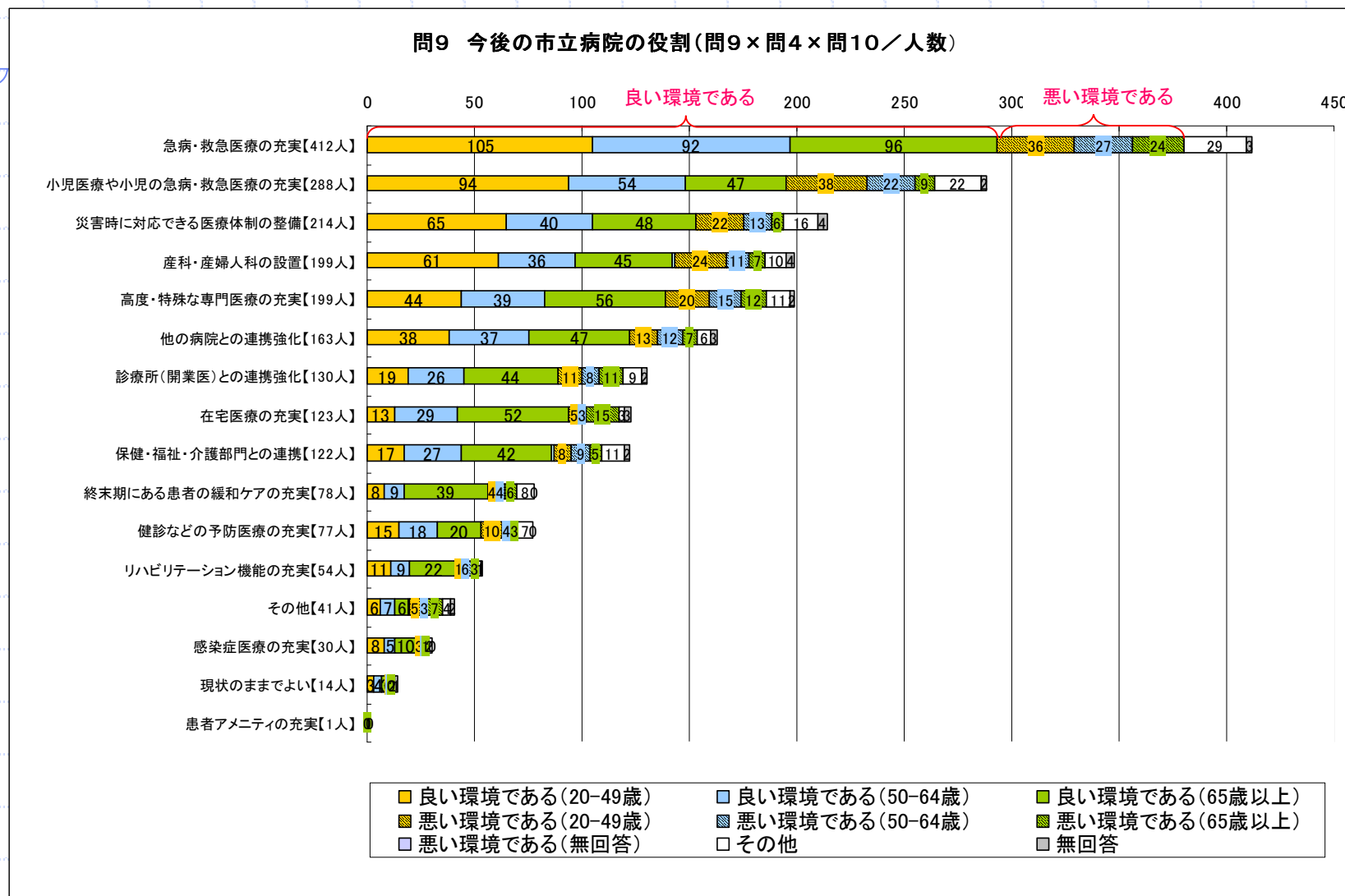
※分析結果は資料編のP22～24に記載

◇【問5, 問10, 問4】地域医療の課題と年齢層, 柏市の医療環境の評価との相関(割合)



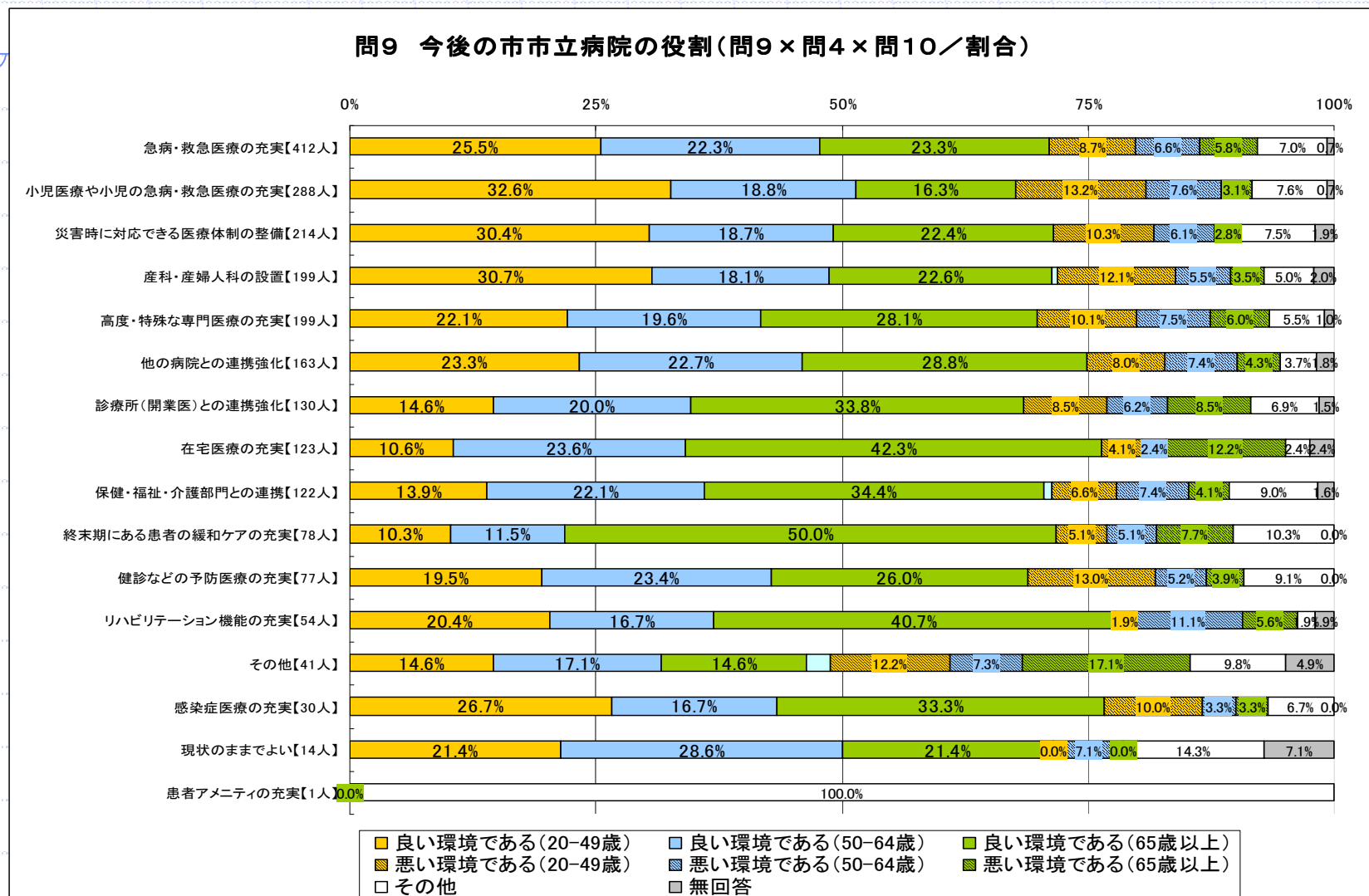
※分析結果は資料編のP22～24に記載

◇【問9, 問10, 問4】市立病院の役割と年齢層, 柏市の医療環境の評価との相関(人数)



※分析結果は資料編のP27～28に記載

◇【問9, 問10, 問4】市立病院の役割と年齢層, 柏市の医療環境の評価との相関(割合)



※分析結果は資料編のP27～28に記載

■地域医療の現状と課題(まとめ)

●基本命題

◆柏市にとっても最大の政策課題は少子高齢化対策である。
平成32年に人口が頭打ちとなることが予測されるこの荒波
の中で

- 次世代を育成しつつ,
- 高まる社会の高齢化をどう乗り切り,
- 将来, 安心できる地域社会をどう創造するか。

という命題が医療にも課せられている。

● 柏市の地域医療の現状

【医師数・病床数・病床稼働】

◆ 柏市の医師数／人口10万人は千葉県平均を上回るものの、全国平均にやや届かないレベルである。

◆ 病院数／人口10万人こそ千葉県平均を下回るが、病床数／人口10万人では県平均を上回る。そして病床稼働率では、全国平均をも上回る高さである。また、平均在院日数は全国平均、千葉県平均のいずれよりも短い。

◆ しかし、医師数／人口10万人を詳しく見ると、

○ 病院勤務医では千葉県平均を上回るものの、診療所医師数では逆に下回り、その負担は重い。

○ 診療科目別のバラツキが比較的大きく、呼吸器系、消化器系、外科系で全国平均をも上回る。

○ 一方、小児科、小児外科、神経内科、循環器科は全国45位の千葉県平均をも下回る危機的状況にある。

○ 全診療科目では柏市は病院勤務医数が診療所医師数を上回っているにも関わらず、特に小児科についてはこれが逆転している。小児救急が柏市においても大きな問題である根本はここにある。

【救急医療の現状】

◆救急医療の現状では、救急搬送数が約15,000件余に及ぶ上に、その数は増加傾向にある。

◆増加の内訳は、軽症患者の増加にある。高齢者が年々増加する現状ではやむを得ない側面はあるが、成人層の利用が最も多いことから市民に適性利用を促す必要性は高い。

◆救急車搬送のみならず、自力来院（ウォークイン）の利用は、22年実績からの推計で $14,473 \text{ 件} \times 4.8 = 69,470 \text{ 件}$ となる。これに一次診療（夜急診）4,730件を加えると、 $14,473 + 69,470 + 4,730 = \mathbf{88,673 \text{ 件}}$ の救急医療利用があったことになり、柏市の救急医療の規模は人口の20%強に上る。

◆柏市では、循環器系、消化器系疾患の救急は、柏市の輪番制とは別に独自の救急ネットワークの強化が図られている。

【小児医療の現状】

◆全診療科目で見た場合、柏市は病院勤務医数が診療所医師数を上回っているにも関わらず、特に小児科についてはこれが逆転している。小児救急が柏市においても大きな問題である根本はここにある。

◆診療分野別に見ると、小児救急の市外依存率は3番目であるが、その内実は軽症、中等症の二次病院の対象ですら三次病院の慈恵柏病院に頼り切っているのが現状。

小児の救急件数が多いことや緊急性を考慮すれば、小児の二次救急を24時間365日受け入れる二次病院が必要。

【産婦人科医療の現状】

◆日常の産科医療は、柏市の人口規模上では、分娩病床数は深刻なほど不足していると言い難いと思われる。

◆但し、他の診療分野に比して、救急搬送における市外依存率がダントツに高く、約70%が市外に依存し、その半数は医療圏外である。そしてその多くは、いわゆる「ハイリスク妊婦」である。

【市民から見た柏市の地域医療】

- ◆概ね70%の市民が、柏市の地域医療は“良い環境”にあると感じている。
- ◆一方で、“悪い環境”と答えている市民も約20%と少なくなく、特に若年層に多い傾向がある。
- ◆しかし、そうした市民でも(悪いと感じる市民はなおさら)、「救急医療」「小児医療・小児救急」を最上位の課題と認識している。特に後者は世代間対立が見られず、全世代が少子化対策の必要性を認めている。
- ◆また、今後の市立病院に期待される役割は、地域医療の最上位課題である「救急医療」「小児医療・小児救急医療」の順に多く、次いで「災害時に対応できる医療体制の整備」等となっている。

【高齢者医療】

◆後期高齢者の増大が進行することから、特に循環器系医療、認知症ケアがますます重要になってくる。特に循環器系疾患は時間が勝負の領域なので、やはり市内の救急体制の拡充が望まれる状態にある。

◆要介護高齢者の増大が予測される中、長期療養型医療の必要性をあげる市民と在宅医療の推進をあげる市民の数がほぼ拮抗している。現在の高齢化政策は、在宅介護と施設介護の落差を埋めることがカギとなることを示唆している。これ乗り越えていくためには、在宅医療が切り札となる。そして、この充実を望む市民も多い。

【その他】

◆若い世代から働き盛りの世代のうつ対策は、柏市だけが抱える問題ではないが、医療従事者だけではこの事態はもはや解決できない状況にまで来ている。

うつ対策は、多職種連携型のケアの質的改善が急務。

● 柏市の地域医療の課題

以上より、柏市の地域医療の課題は、

◆「救急医療の充実」、「小児（急病）医療の充実」「産科医療（ハイリスク妊婦対応）」「在宅医療の充実の推進」

◆次いで、これらを支える取り組みとしての「医療介護連携」「病診連携」と言える。

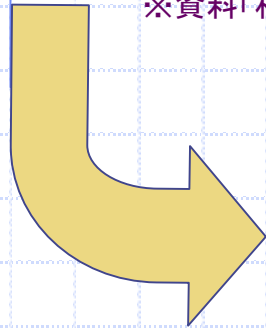
◆また、市民の多くが医療環境を「良い」と評価する一方、医師の疲弊は相当程度であり、分野によっては診療所医師の高齢化も進んでいることから、いわゆるコンビニ受診の問題も考えると、市民の医療リテラシーの向上も不可欠である

■テーマ2; 地域医療の課題を踏まえた これからの市立病院の基本スタンスの検討

◆最重要課題(根本的な問題)

地域医療の課題を前に, どんな機能の病院となっていくべきか。

※資料「柏市立柏病院の現況について」をも参照。



◆この新しい病院のコンセプトの確立があってこそ,
現状の市立病院が抱える課題が抽出されてくる。

◆その課題とは・・・

◆その課題をどう克服していくのか・・・